

95 遺伝性QT延長症候群 臨床調査個人票 (案) (1.新規)

資料3-7①

| | | | | | | | | |
|-------------------|---|-----------|---------|--------------------------|-----------|------------------------|----------------------------|---------|
| ふりがな | | | 性別 | 1.男 2.女 | 生 年 月 日 | 1.明治 2.大正 3.昭和 4.平成 | 年 月 日 | 生 年 月 日 |
| 氏 名 | | | | | | | (満 歳) | |
| 住 所 | 郵便番号 | | | 出 都 道 府 県 | 生 都 道 府 県 | 発病時在住 都 道 府 県 | | |
| 発 病 年 月 | 1.昭和 2.平成 | 年 月 (満 歳) | 初診年月日 | 1.昭和 2.平成 | 年 月 日 | 保 険 種 別 | 1.協 2.組 3.船 4.共 5.国 6.後 | |
| 身 体 障 害 者 帳 手 帳 | 1.あり (等級 級) 2.なし | | 介 護 認 定 | 1.要介護 (要介護度) 2.要支援 3.なし | | | | |
| 生 活 状 況 | 社会活動 (1.就労 2.就学 3.家事労働 4.在宅療養 5.入院 6.入所 7.その他 ()) 日常生活 (1.正常 2.やや不自由であるが独力で可能 3.制限があり部分介助 4.全面介助) | | | | | | | |
| 発 病 以 来 の 受 診 状 況 | 最近1年間以内の通院状況 (回/月・ 回/年) 過去の入院状況 (回/年) (年 月~ 年 月) (年 月~ 年 月) | | | | | | | |

網掛け部分を患者さん(または代理の方)が記入してから医師にお持ちください。

1 病型 (□にレ印を記入してください。)

Romano-Ward 症候群 (常染色体優性遺伝)

Jervall-Lange-Nielsen 症候群 (常染色体劣性遺伝・先天性嚔を伴う。)

Anderson 症候群 (常染色体優性遺伝)

Timothy 症候群

特発性QT延長症候群

2 発症と経過 発症 歳

3 心電図所見 患者及び同疾患の家族の心電図のコピーの添付を要す

QTc msec QTc 480msec以上 (3点), 460~479msec (2点), 男性で450~459msec (1点) 点

(QT 間隔 秒 RR 間隔 秒)

運動負荷後4分のQTc msec 480msec以上 (1点) 点

Torsade de pointes (有・無) 有る場合2点 点※

交互性T波 (T wave alternans) (有・無) 有る場合1点 点

Notched T波 (3誘導以上) (有・無) 有る場合1点 点

脈拍 /sec → 徐脈 (有・無) 有る場合0.5点 点

その他の心電図所見 ()

4 主要症状

失神発作 (有・無) ストレスに伴う失神発作2点、ストレスに伴わない失神発作1点 点※

先天性嚔 (有・無) 有る場合0.5点 点

その他の症状 ()

5 家族歴 (血縁者)

確実な家族歴 (有・無) 有る場合1点 点

有る場合 → 続柄 () 必ずその心電図を添付すること

30歳未満での突然死の家族歴 (有・無) 有る場合0.5点 点

有る場合 → 続柄と詳細 ()

上記3から5までの点数の合計 点

※ 3のTorsade de pointesと4の失神発作が両方ある場合は、加算せず、2点として扱う。

6 二次性QT延長症候群の除外診断
以下を鑑別し、全て除外できる。
 1. 全て除外可 2. 除外不可→2.の場合は、下記の除外できない項目の□に✓印を記入の上、除外できない理由をそれぞれ右に記載してください。

※ それぞれの□に✓印を記入してください。

器質的疾患: 急性心筋炎 (理由:)
心筋梗塞 (理由:)
僧帽弁逸脱症候群 (理由:)
甲状腺機能低下症 (理由:)
その他の疾患の存在: (理由:)

薬物性: 抗不整脈薬 {プロカインアミド・ジソピラミド・その他 () } (理由:)
向精神薬 {フェノチアジン系・三環系・その他 () } (理由:)
有機リン酸塩 (理由:)
その他: (理由:)

電解質異常: 低カリウム血症 (理由:)
低カルシウム血症 (理由:)
低マグネシウム血症 (理由:)

中枢神経系障害: くも膜下出血 (理由:)
急性脳出血・梗塞 (理由:)
頭部外傷 (理由:)
その他: (理由:)

高度徐脈性不整脈 (理由:)
低カロリー食事療法 (理由:)
人工ペースメーカー機能異常 (理由:)
その他: (理由:)

7 治療内容について記載してください。

① 直近6か月の薬物治療実施の有無

1.あり → 具体的な治療内容 (使用薬、開始時期、反応性など) について、②に記載してください。

2.なし → 治療歴や今後の治療予定について、その治療内容や開始時期等を②に記載してください。

② 治療内容又は治療予定等

③ 植込み型除細動器 (ICD) 治療実施の有無

1.あり

2.なし → 今後の治療予定について、④に記載してください。

④ 治療予定等

医療機関名 医療機関コード

医療機関所在地

担当医師 氏名 記載年月日:平成 年 月 日

(注) 1 病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、認定基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません (ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。)

2 治療開始後における重症度分類については、認定基準上に特段の規定がない場合には、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近6か月間で最も悪い状態を記載してください。

3 記入漏れのある場合、鑑別診断が不十分な場合、添付資料に不足がある場合等は認定できないことがあります。

4 臨床調査個人票の有効期間は、記載日から起算して3か月以内です。

95 遺伝性QT延長症候群 臨床調査個人票(案) (2.更新)

資料3-7②

Form with fields for name, sex, birth date, address, medical history, insurance, and family history.

治療と経過(具体的に記述)

治療(治療継続・治療中止・経過観察のみ・その他())

該当の□に✓印を記入してください。()内は選択、あるいは詳細を記載してください。

- 1 病型 □ Romano-Ward 症候群 (常染色体優性遺伝) □ Jervell-Lange-Nielsen 症候群 (常染色体劣性遺伝・先天性聾を伴う。) □ Anderson 症候群 (常染色体優性遺伝) □ Timothy 症候群 □ 特発性 QT 延長症候群

2 心電図所見 (最近1年間で実施していれば記載してください。) QTC msec (QT 間隔 秒 RR 間隔 秒) Torsades de pointes (有・無) 交互性T波 (T wave alternans) (有・無) Notched T 波 (3誘導以上) (有・無) 脈拍 /sec → 徐脈 (有・無) その他の心電図所見 ()

3 最近1年の症状 失神発作 (有・無) 有の場合→ストレスに伴う失神発作 (有・無) その他の症状 ()

4 治療内容について記載してください。

- ① 直近6か月の薬物治療実施の有無 □ 1.あり → 具体的な治療内容(使用薬、開始時期、反応性など)について、②に記載してください □ 2.なし → 最近1年間の治療内容及び今後の治療予定等について、②に記載してください。

② 治療内容又は治療予定等

③ 植込み型除細動器(ICD)治療について

- 1.実施済み → 実施年月日: 年 月 日 □ 2.今後、実施予定 → 具体的な治療予定について、④に記載してください。 □ 3.現時点では、実施予定なし

④ 治療予定等

Form with fields for medical issues, medical institution name, address, and physician name.

- (注) 1 病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、認定基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません(ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。)

◆遺伝性QT延長症候群の医療費等助成認定基準◆

(診断基準) 二次性を除くQT延長症候群で、かつ、以下の1から3までの各所見の点数の合計により「診断確実」となるもの。なお、新規申請時のみ、患者及び同疾患の家族の心電図のコピーの添付を要する。

- 【所見】 1 心電図所見 A QT時間の延長*1 (QTc*2) ≥480msec ... 3点 460~479msec ... 2点 450~459msec (男性) ... 1点 B 運動負荷後4分のQTc ≥480msec ... 1点 C Torsade de pointes*3 ... 2点 D 交互性T波 (T wave alternans) ... 1点 E Notched T 波 (3誘導以上) ... 1点 F 徐脈 ... 0.5点 2 臨床症状 A 失神発作*3 ストレスに伴う ... 2点 ストレスに伴わない ... 1点 B 先天性聾 ... 0.5点 3 家族歴 A 確実な家族歴 ... 1点 B 30歳未満での突然死の家族歴 ... 0.5点

上記1から3までの点数の合計により、≥3.5点:診断確実、1.5点~3点:疑診、≤1点:可能性が低い、と判断する。

- *1 治療前あるいはQT延長を起こす因子がない状態での記録 *2 QTc (修正QT時間) *3 両方ある場合は2点

【鑑別除外診断】 二次性QT延長症候群: 器質疾患に伴うもの(急性心筋炎、心筋梗塞、僧帽弁逸脱症候群、甲状腺機能低下症など)、薬物性(抗不整脈薬:プロカインアミド、ジソピラミドなど、向精神薬:フェノチアジン系、三環系など、有機リン酸塩など)、電解質異常(低カリウム血症、低カルシウム血症、低マグネシウム血症など、中枢神経系障害(クモ膜下出血、急性脳内出血又は梗塞、頭部外傷など)、高度徐脈性不整脈、その他(人工ペースメーカー機能異常、低カロリー食事療法など)

(重症度分類等) 以下の1又は2に該当するものを重症例として対象とする。

- 1 薬物治療を要するもの 2 植込み型除細動器(ICD)治療を実施し、又は実施する予定のもの

Table with columns for recipient number and reviewer.

